

# REPORT

●レポート●

## カナエール 2012

### 夢スピーチコンテスト

#### 児童養護施設を退所した 若者の奨学金支援プログラム

文/太田美由紀 (ライター)  
写真協力/NPO 法人ブリッジフォースマイル

2012 (平成24) 年7月1日、児童養護施設を巣立つ若者たちへの自立支援事業活動の一環となるスピーチコンテストが、NPO 法人ブリッジフォースマイルによって開催された。選ばれた9人の奨学生たちが、自身の過去、現在、未来を俯瞰し、夢を語った。

東京・大手町。オフィスビルが立ち並び平日はごった返す街も、日曜日は人影もまばらだ。小雨が降る中、会場であるパナナグループ本社に向かうと、1階の入り口からはボランティアのスタッフたちの活気あふれる明るい声が響いていた。「カナエールスピーチコンテストの会場はこちらです!」

会場の受付ではスタッフがズラリと迎えてくれた。協賛企業、協力企業、関係者や支援者からの花が並び、華やかに飾られている。会場は多くの支援者が席を埋めていた。

「カナエール」とは、認定NPO 法人ブリッジフォースマイルによる奨学金プログラムで、児童養護施設を退所した後、大学や専門学校などに進学する

子どもたちをサポートするプログラムは大きな意味を持つ。

この日はカナエールに応募した学生の中から、書類選考により厳選され奨学生となった18歳から21歳の9人が参加した。自らの過去、現在、未来と向き合い、夢を語るスピーチコンテストでは、「共感力」「プレゼン力」「そのひとらしさ」を基準に審査が行われる。

#### 児童養護施設の 現状と、時間、意欲の サポート体制

開演時刻の14時。開会宣言の後、NPO 法人ブリッジフォースマイルの林恵子代表の挨拶があった。

林代表は、児童養護施設の子どもの現在の現状を、プロジェクトを用いて説明する。

「2012年3月現在、全国には585の児童養護施設があり、約3万人の子どもたちが暮らしています。見



主宰団体NPO法人ブリッジフォースマイルの林恵子代表



子どもたちの支援を行っている。児童養護施設で暮らす子どもたちは、18歳で高校を卒業すると同時に児童施設を出て自立しなければならぬ。生活費、学費をまかなうことの難しさから、進学をあきらめる子どもたちは多い。また、たとえ進学したとしても、卒業を断念して中退するケースも少なくないという。そのような状況におかれた子

#### カナエールとは?

児童養護施設退所者が大学等へ進学し卒業するまでを継続的に支える奨学金プロジェクト。

#### 特徴

- ① 奨学金は、複数の個人・企業、イベントなど多様な方法で集める
- ② スピーチコンテストや、ブログ等を通じ、若者・支援者双方の顔が見える場の提供
- ③ 資金だけでなく、奨学生自身の成長を促す機会の提供

#### 支援内容

- 進学・就学を希望する若者に2つの側面から支援
- ① 資金：一時金30万円、卒業まで毎月3万円の奨学金
  - ② 意欲：コンテストまでのトレーニング、支援者との交流

#### お願いしたいこと

- ① 奨学金の月々寄付
- ② 支援対象者とのコミュニケーション
- ③ 広報、プロモーション

#### ホームページ










www.canayell.com

SCHOOL ENTRY  
ADVOCACY PROGRAM

カナエール

コンテストに出場した  
カナエルンジャー9人の  
叶えたい夢

約3カ月間、厳しいアルバイト生活の間を縫ってスピーチトレーニングに励んできた9人の奨学生たち。プライバシー保護の観点から、奨学生をカナエルンジャーと呼び、さまざまな色で表現している。

<p><b>ピンク ゆづ</b> 専門学校2年 安心と癒しを与える看護師</p> 	<p><b>オレンジ おだちゃん</b> 専門学校1年 子どもの気持ちに寄りそえる施設職員</p> 	<p><b>パープル ドモン</b> 専門学校1年 たくさん読者を笑わせる漫画家</p> 	<p><b>ブラック あつきー</b> 大学3年 生徒一人ひとりに真剣に向き合う教師</p> 	<p><b>ブルー あつくん</b> 短期大学1年 世界で活躍するトランペット奏者</p> 
<p><b>ホワイト ユズ</b> 高校3年 芸術に関わる仕事につくこと</p> 	<p><b>ゴールド みさき</b> 高校3年 子どもを温かく見守る児童養護施設の職員</p> 	<p><b>グリーン ダニエル</b> 大学3年 頼れるスポーツインストラクター</p> 	<p><b>レッド さち</b> 専門学校1年 子どもたちを家族のように愛情を持って見守り続ける施設職員</p> 	<p><b>レッド さち</b> 専門学校1年 子どもたちを家族のように愛情を持って見守り続ける施設職員</p>

※順不同

児童養護施設が受け入れる子どもの年齢は18歳までです。多くの子どもたちは社会に入る準備も、一人暮らしの準備も不十分なままに自立しなければならぬという状況があるのです。

児童養護施設の子どもの約9割に親が現存しており、施設の6割の子どもたちは虐待を受けていたという現実もある。経済的な問題、社会の偏見、孤独感などさまざまな問題を抱え、あきらめるのは心に傷を負いながらも自立を迫られる。夢や進学にチャレンジすることさえあきらめて就職する子どもたちが80%。施設からの進学率は20%と一般の子どもたちの全国平均70%（平成22年厚生労働省雇用均等・児童家庭局調べ）の3分の1を下回る。また、たとえ進学したとしても多くの時間を学費や生活費のためのアルバイトに費やすことになる。精神的、体力的、経済的に限界に達し、40%が中退を余儀なくされ、これも全国平均の3倍（平

そこで、学業とアルバイトの両立、夢をかなえるために必要な資格や学歴へのチャレンジをバックアップするため、カナエルは継続的なサポートを呼びかけている。奨学生は、一時金のほかに月々3万円の資金援助を受けることができる。これは、時給800円に換算すると37・5時間分に相当する計算だ。睡眠、勉強、友だちと過ごす時間を削ってアルバイトに励む奨学生への「時間のプレゼント」だという。

顔の見える支援で  
進学や夢への意欲を高める

奨学生として選ばれた子どもたちは、カナエルンジャーと呼ばれ、個人情報保護の観点から、色とりどりのカラーやあだ名を名乗り、SNSでのブログを通じて支援者に学生生活の近況を報告する。応援者もまた、メッセージを送ることができる。スピーチコンテストの会場では応援者の前で語り、

**カナエル2012 年間スケジュール**

1月	奨学生（カナエルンジャー）募集、選考 サポートボランティア（エンパワチーム）募集、決定
2月	エンパワチーム研修
3月	オリエンテーション、合宿研修
4月	チーム活動開始
5月	スピーチトレーニング、プレ発表会
6月	個別スピーチトレーニング開催
7月	カナエル2012 夢スピーチコンテスト 奨学金支給開始
9月	歴代奨学生の近況報告会

成22年度日本中退予防研究所調査）にのぼる。そしてさらに、進学後、無事に卒業する子どもたちは全体のわずか12%。これは、教育格差ならぬ「希望格差」だと林代表は言う。

コンテスト後の交流会でも、直接対話ができる場所をもうけている。児童養護の世界ではプライバシーについての壁が高く、当事者の声を聞くことさえ難しい。しかし、こうした顔の見える関係の中でこそ、奨学生たちは応援により支えられていることを実感



1人につき3人のボランティアがチームを組み、スピーチトレーニングなどをサポート。スピーチの際もすぐ脇で見守る



感じ、チャレンジするための力を発揮することが出来る。応援者には支援できる喜びや、もつと応援したいという気持ちが生まれるだろう。

また、スピーチコンテストに参加することで、さらに進学や夢への意欲を高めているようだ。カナエルンジャーとして選ばれたとしても、スピーチコンテストに出場するためには、過去から現在までの自分自身としっかりと向き合いながら、3人のサポートボランティアであるエンパワチームと交流を持ち、夢についてあらためて考えていかなければならない。スピーチ直前に上映する3分間のカナエルンジャー紹介ビデオでは、人生を支えてくれた恩師や友人などと再会し、憧れる職業の先輩にもインタビュアーを試みる。事前発表会やスピーチトレーニングなど、熱い想いをかみしめながら、スピーチコンテストを目指してきたことは明らかだ。

謝という意味が分かりませんでした」彼女を変えたのは、先生に勧められた『世界がもし百人の村だったら』というテレビ番組だった。学校に通えること、友だちや先生が応援してくれることの素晴らしさに気づいたという。「自分の過去や生い立ちをただ悲観して生きているのではなく、今ある幸せに気づき、感謝することが大切だと思いました。この気持ちが、いま私の原点になっています」

彼女は笑顔でこう締めくくった。「看護師になり、人として成長し、私を応援してくださいとお願いしている人たちへ恩返しができるよう頑張ります。そして、いつか病院という枠を超えて、『世界がもし百人の村だったら』で見た貧しい地域の人々のサポートもしていきたいです。これまで多くの人たちにももらった愛情を、看護師になって患者さんや社会に還元したいです。最後まで聞いてくださりありがとうございます」



スピーチ前には3分間のカナエルンジャー紹介ビデオを上映。一人ひとりの夢の背景に迫る

### 今年度優勝者は カナエルンジャーピンク

今年度の参加者は9人。全員のスピーチはどれもリアルで、個性を生かしたその人にしか語れない内容であり、生き生きとした力強いパワーがあった。

児童養護施設で過ごすことになった

### 「助けてあげる」のではなく 「元気をもらえぬ」支援

それぞれ大変な苦勞を乗り越え、もしくは渦中にいながらも、たくましく夢を語る彼ら9人の言葉と、映像から伝わってくる彼らの日々の行動は、会場の人たちに強く響いていた。学ぶこと、生きることの原点がそこにあった。自分のためを思ってくれる人に気づき、誰かのためにになりたいと思う。そしてそのために学ぶ姿があった。

会場にいるすべての人が、自分自身の生活や人生に対するスタンスを見つめ直し、再確認する機会になったのではないだろうか。

また、彼らへの支援は、「かわいそうな子どもたちを助けてあげる」ということとは大きく異なるとも気付かされる。支援という形で、彼らが夢をつかむ力に少しでもなれる。誰かの役に立つ喜びを感じられる。だからこそ、

いきさつ、モヤモヤした気持ちを抱えながらの思春期、9人はみな、さまざまな人やものとの出会いによって、それぞれが違う形で「人のためになりたい」と強く願うようになっていた。そして、純粹に夢を追い求めている。

今年度の優勝者はカナエルンジャーピンク、ゆうだ。彼女のスピーチの一部を抜粋して紹介しよう。現在は、看護師を目指して専門学校に通っている。2歳から児童養護施設で過ごしていた彼女は、小学生になり、徐々に友だちとの違いに気が付き始めたという。

「友達と違う生活に不満を抱くようになり、周囲にも反抗的な態度で接するようになっていました。決められた習い事をさせられるのも不満でした。やらされているのだから、何かをしてもらっても当たり前前だと思っていました。」

お腹いっぱいにご飯を食べたり、学校に通えることなども当たり前で、感



『できるかも。働く母の“笑顔につながる”社会起業ストーリー』

著者/林 恵子  
英治出版  
1,575円 (税込み)

### カナエール主宰の林恵子代表も 自ら夢を掲げ、成長してきた

NPO法人ブリッジフォースマイル(ホームページ [www.b4s.jp](http://www.b4s.jp))の林恵子代表は、2児の母。仕事と家庭を両立させながら自分自身の夢を模索してきた。仲間や家族、施設職員や施設の子どもたちとの交流や葛藤の様子、一人の女性としての成長のストーリーがここにある。社会起業を目指す人にとってのひとつのモデルであり、仕事と家庭の両立に悩む女性にとっての指南書。

支援者が元気をもらうことができるだろう。

スピーチコンテストで9人の演者は、自分でできることから世界を変えていきたいという思いを語った。私たちも今、自分でできることを探して行動に移すことで、少しでも何かを変えていけるのかもしれない。